

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第58号

2010年2月15日

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/>

## 1. オーストラリア学会 2010 年度総会・全国研究大会 概要

日時：6月12日（土）・13日（日）

会場：12日（土）桜の聖母短期大学（〒960-8585 福島県福島市花園町3-6）

<http://www.sakuranoseibo.jp/guidance/access.html>

13日（日）福島大学（〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地）

<http://www.fukushima-u.ac.jp/global/access/index.html>

※6月11日（土）夜に理事会を開催予定

担当：村上雄一（福島大学）・塩原良和（慶應義塾大学）

### □第1日目 6月12日（土）13:00～ 桜の聖母短期大学

基調講演 ゲイ・ホーキンス（NSW 大学教授）

題目「多文化社会オーストラリアにおけるメディア（仮）」

特別企画「日豪をつなぐ記憶の渦—第二次世界大戦をめぐる—」

（「特殊敵国人収容所」跡地見学・講演&関連ドキュメンタリー上映）

懇親会

### □第2日目 6月13日（日）10:00～ 福島大学

午前 一般個別研究報告

ワークショップ「多文化社会におけるシネリテラシーの可能性」

午後 理事会・総会

シンポジウム「オーストラリアにおけるシネリテラシー教育とその日本社会への示唆」

報告者：ジェーン・ミルズ（チャールズ・スタート大学准教授）／ほか

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

## 2. 第7期第5回理事会報告（2009年12月6日14:00- 慶應義塾大学三田キャンパス）

- (1) 学会報発行状況（第55号、第56号、第57号）、および発行予定案（第58号、第59号、第60号）。
- (2) 学会誌『オーストラリア研究』第23号（2010年3月発行予定）編集進捗状況
- (3) 全国研究大会準備状況：福島大学他にて2010年6月に実施する。（1頁1.参照）
- (4) 地域研究会（関西）の報告（4頁8.参照）
- (5) 財務諸表の修正：財務諸表の修正に関する説明が会計担当理事よりなされ、了承された。
- (6) 役員の仕事分担：有満理事の監事兼任を解除し、代表理事経験者を中心に監事就任を打診する。運営委員会に庶務担当理事を加える。
- (7) AJF 助成事業：民族学博物館での実施報告がなされた（3頁6.参照）。春期事業は上智大学で予定。次年度助成金（3月申請、6月結果通知予定）は、運営委員会にて企画準備する。
- (8) 日常的な学会事務業務の外部業者委託について：NPO法人「ACNet」との契約を更新する。今後、同法人から全国大会への職員派遣も検討する。
- (9) 新規学会 Web ページ立ち上げについて：ほぼ完成しており、国立情報学研究所へリンクを張り、学会紀要のバックナンバーをPDFファイルで掲載してもらう予定。
- (10) 地域研究学会連絡協議会について：国の事業仕分けに対し、本学会が所属している「地域研究学会連絡協議会」が抗議文を提出したが、理事会での手続きが間に合わなかったオーストラリア学会は、連名にならなかった。今後は連名にしたい旨、代表理事から提案があり、了承された。
- (11) メールマガジン配信について：09年8月以降、ACNetへ業務移行済み。今後も理事からの要請は、原則、配信とし、その他からの依頼については、担当副代表理事と相談して、配信の可否を決める。
- (12) 新規入会7名を承認する。

出席者＝関根政美（代表理事）、有満保江、飯笹佐代子、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、小林信一、塩原良和、鈴木雄雅、田澤佳昭、永野隆行、橋本雄太郎、松繁寿和、村上雄一（以上理事）

## 2007年12月□2010年12月役員一覧

[代表理事] 関根政美

[副代表理事(企画)] 鎌田真弓

[全国研究大会担当理事] 藤川隆男、南出眞助

[プロジェクト担当理事] 関根政美、有満保江  
加賀爪 優、永野隆行

[関東例会担当理事] 関根政美、塩原良和  
永野隆行

[関西例会担当理事] 南出眞助、藤川隆男  
松繁寿和

[副代表理事(総務)] 橋本雄太郎

[庶務担当理事] 村上雄一、塩原良和

[会計担当理事] 田澤佳昭

[広報担当理事] 橋本雄太郎

[副代表理事(編集)] 小林信一

[学会誌担当理事] 加藤めぐみ、有満保江

安藤 充、飯笹佐代子

川口 章、安田純子

[会報担当理事] 田澤佳昭、塩原良和

[HP担当理事] 安藤 充、鈴木雄雅

[監事] 谷内 達(2009年12月より)

もう1名、打診中

※岡崎一浩、有満保江(2009年5月まで)

[運営委員会] 代表理事・副代表理事・

会計担当理事・庶務担当

理事にて構成

### 3. 豪日交流基金助成 2010年春学期大学院公開講座

#### シンポジウム「グローバル化とメディア：オーストラリアとアジア」のお知らせ

本シンポジウムは急速に多様化する東アジア社会のなかで、メディアが果たす役割を考えることを目的とします。オーストラリアの多文化社会を代表する多言語放送 SBS 研究の第一人者であるニューサウスウェールズ大学の Gay Hawkins 教授(現在東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授)ほか、エスニシティとメディアを研究する内外の研究者をお招きし、参加者とともに、多様な社会のなかでメディア、文化のあり方を考えたいと思います。開催は5月中旬頃、上智大学四ツ谷キャンパス(東京都千代田区)を予定しています。決定次第学会サイト(<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2>)ならびに本会報にてお知らせします。

### 4. 第2回 地域研究会(関東)のお知らせ

\*非会員の方も参加できます

日時: 2010年3月7日(日) 14:00~17:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 第一校舎 106 教室

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 <http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

連絡先: 塩原良和(慶應義塾大学) [shiobara@law.keio.ac.jp](mailto:shiobara@law.keio.ac.jp)

報告:

#### (1) 「日本語教師の意味世界とその形成過程：ある教師のライフストーリーにみるオーストラリアの社会的政治的文脈」 太田裕子(早稲田大学)

【要旨】1980年代以来、オーストラリアは独自の言語教育政策のもと、初等中等教育機関において言語教育を推進してきた。その中でも日本語は、日豪間の密接な経済関係を背景に、学習者数を増加させてきた。このような社会的、政治的、経済的状況の中で、個々の日本語教師はどのような経験をし、それを意味づけ、日本語教育に関わる意味世界を形成してきたのだろうか。本報告では、ある日本語教師のライフストーリーの分析をもとに、日本語教師個人の意味世界形成過程とオーストラリアの社会的政治的文脈の関係を論じる。

#### (2) 「『校則』から見るオーストラリアの中等教育学校：エスノグラフィに基づく日豪比較の視点から」 松本浩欣(東京大学大学院博士課程/相模女子大学中学部・高等部教諭)

【要旨】今日の日本の教育問題は、教師の資質の問題などに矮小化される傾向が強いが、構造問題の解決を個人に帰結するのではなく、制度として教育の質を高める努力が必要である。その意味で、学校を規定する「校則」の研究はより深められるべきと考える。そのような視座から、報告者が1999年以来参与観察を行ってきた西オーストラリア州のカトリック中等教育学校で、授業規律や学校生活などがスムーズに行われている学校運営を事例とし、その限界を探ることも含め、日本の学校の「校則」との比較の中で、そのあるべき姿について論じたい。

コメンテータ: 伊井義人(藤女子大学)

※第2回地域研究会(関東)は豪日交流基金からの助成を受けて実施いたします。ふるってご参加ください。



## 5. 第10回 地域研究会（関西）のお知らせ

\*非会員の方も参加できます

日時：2010年3月13日（土）14:00～17:00

場所：茨木市西安威 2-1-15 追手門学院大学5号館8階 大会議室

連絡先：同大学オーストラリア研究所 Tel: 072-641-9667 FAX: 072-643-9476

Email: cas@office.otemon.ac.jp URL: <http://www.otemon.ac.jp/cas/>

交通：JR 茨木駅西口南へ7分「マイカル茨木」横、または阪急茨木市駅西口から  
追手門学院スクールバス（無料）13:10発。

報告：

### (1) 「ティウイ・アボリジニの社会におけるキョウダイの同居をめぐって」

川崎和也（広島大学大学院・博士後期課程）

【要旨】オーストラリア北部のアボリジニ、ティウイの社会には、異性のキョウダイの住まいを分ける慣習がある。しかし、現在では、キョウダイで同居を行う家もかなりの数で確認できる。はたして当該社会では、このような慣習はすでに過去のものになってしまったのだろうか。今回の発表では、ティウイの人達のキョウダイの住み方についての考え方や実際の家のなかでの住み方などを見てゆきながら、その状況を明らかにしたいと思う。

### (2) 「オーストラリアと日本の高齢者介護施設におけるケアについての研究」三宅眞理（関西医科大学）

【要旨】オーストラリアでは高齢者の介護予防や認知リハビリテーションを重視し、高齢者介護施設において入居者のニーズに合わせた活動やレクリエーションなどを提供する。本研究は日本とオーストラリアの施設入居者の生活リズムについて行動計を用いて調査した。高齢者のライフスタイルを専門的に評価する介護サービスや、施設環境、社会的背景が高齢者のライフスタイルにどのような影響を与えるかを両国の比較から検討した。

※地域研究会（関西／関東）に関しては、発表者が大学院生の場合に限り、居住地と例会会場間の交通費に関し、主要都市間の交通費実額の半額を、1万円を極度額として、補助します。

## 6. 豪日交流基金助成 国立民族学博物館・オーストラリア学会主催大学院特別公開講義

「アイヌとアボリジナルのいま」報告

松山利夫

2009年度の大学院特別公開講義は、去る11月27日と28日の両日に国立民族学博物館で開催されました。27日は非公開のプレミーティングで、アイヌならびにアボリジナルをはじめ総勢5人の講師相互の間で講義内容についての打ち合わせをおこないました。翌28日の公開講義では、最初にオーストラリア学会から関根先生の、豪日交流基金からは堀田事務局長のご挨拶をいただきました。ついでそれぞれが直面する問題について先住民当事者とその研究者による講義がおこなわれました。そのなかで強調されたひとつは、民族が集団的に継承してきた「知識の体系」が環境の維持管理に重要な意味をもつことでした。またひとつは、オーストラリアに比べて大きく立ち後れた日本の先住民政策があらためて明らかにされたことです。また、多くの成果のなかでアイヌならびにアボリジナルにかかわる大学院生を中心にした若手研究者に、国際的な交流と研究情報収集の場を提供できたことは特筆すべきでしょう。なお、この講義には関西圏はもとより関東圏からも多くの参加者を得ることができました。その総数は約130名に達し、そのなかには遠く福島県や山口県からの参加者もありました。

## 7. 豪日交流基金助成 第4回 同志社大学公開講演会報告

有満保江

クリストス・ツィオルカス氏（作家）を迎え、12月5日（土）13:00～16:00に同志社大学今出川校地寒梅館大会議室にて行われました。司会は湊圭史氏（立命館大学講師）で、コメンテータにはディヴィッド・ギルビィ氏（チャールズ・スタート大学）、佐藤渉氏（立命館大学准教授）をお迎えしました。この講演は、2009年9月17日（木）に予定されていましたが、講演者ツィオルカス氏の怪我のために中止されました。しかし同氏の怪我の快復で、今回の講演会が実現しました。ギリシャ系移民を両親にもつツィオルカス氏は、「オーストラリア人とは何か？」という問題を彼自身の作品に言及しながら語りました。彼は多文化社会でアイデンティティを構築するとき、言語と歴史が重要であるとします。近年、ヨーロッパや英語圏では、「多文化主義社会」に不信感が募っています。なぜならテロやイスラム社会の戦闘的な態度への恐怖から、世界規模で難民が増加しているからです。しかしツィオルカス氏は、オーストラリアを多文化主義社会の成功例とし、この動きに異議を唱えます。彼は、多文化社会にこそ伝統や国家など既成の概念に囚われない、新たな言語や文化、そして人間像を作り出す可能性があるかと語りました。

## 8. 第9回地域研究会（関西例会）活動報告

南出眞助

標記の研究会が2009年11月21日（土）14：10～17：10に追手門学院大学で行われました。共通テーマは「オーストラリアの多文化社会」、発表は①「オーストラリアの言語政策の展開—多文化社会に求められる言語教育をめぐって」松田陽子（兵庫県立大学）、②「シドニーの都市再開発にみる多文化表象」吉田道代（摂南大学）。①は多言語教育において、英語教育重視やアジア言語重視などの政策転換と多文化主義をめぐる社会意識の変容に関する分析、②はシドニーのチャイナタウンとイタリアンフォーラム地区を例に、エスニシティが都市計画に及ぼす影響を景観的に分析したものでした。司会：藤川隆男、南出眞助。参加者23名。フロアーからは、かつての日本語ブーム経験者や、シドニー長期滞在経験者から多面的な質問が出ました。また、2010年度にシドニーで在外研究という方も2名参加され、今後に向けた情報交流の場としても有意義でした。

## 9. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号24号に掲載する論文の投稿は8月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは23号掲載予定の「投稿要領」（2009年7月12日一部改定）をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2010年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだFD）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階 CANPAN センター内  
ACNet オーストラリア学会事務局担当

Tel 03-5251-3967 / Fax 03-3504-3909 / E-mail ac056-asaj@canpan.org

※投稿先が変更されましたのでご注意ください。

### 新刊書のご案内

◎『子どもの放課後を考える - 諸外国との比較でみる学童保育問題』池本美香（編著）勁草書房、2009年12月発行（価格：2800円＋税 ISBN：978-4-326-25060-8）

出版社ウェブサイトによる紹介 <http://www.keisoshobo.co.jp/book/b51494.html>

※第7章 オーストラリア・・・学童保育の認証制度とユニークで多様な放課後対策（白田明子）

【諸届出／連絡先】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階 CANPAN センター内  
AcNet オーストラリア学会事務局担当 Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org

#### 【オーストラリア学会事務局】

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付

TEL：042-691-0011（代）／FAX：042-691-5899／E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、ACNet事務局担当までお送りください。【紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。】なお書評欄に掲載を希望される場合は、学会事務局宛に献本願います。【編集担当：塩原良和（慶應義塾大学）】